

令和4年度学校評価表

栃木県立那須清峰高等学校

教 育 目 標		Specialist としての Spirit・Sense・Manner を有する技術者の養成		
本年度の努力点		(1) 学習環境を整えるとともに、学習習慣を定着させ、生徒の学力向上に努める。 (2) 基本的な生活習慣を確立させ、相手を思いやる豊かな人間性の育成に努める。 (3) 各部・各科・各教科の特色を発揮し、地域から信頼される学校づくりに努める。 (4) 部活動など特別活動を充実させ、健全な心身の育成に努める。 (5) キャリア教育の視点を踏まえた体系的な進路指導の充実に努める。		
評 価 基 準		十分満足できる・・・A 概ね満足できる・・・B 努力を要する・・・C 一層努力を要する・・・D		
評 価 項 目		①学校運営 ②学習指導 ③生徒指導 ④進路指導 ⑤特別活動 ⑥読書指導 ⑦健康指導 ⑧施設設備の安全管理 ⑨家庭地域との連携 ⑩情報化推進 ⑪工業教育 ⑫商業教育		
評価項目	重 点 目 標	具 体 的 取 組	評 価	次年度の課題とその対応策
学習指導② (学習指導部)	1 真剣に授業に取り組む態度を育成し、基礎学力の定着を図る。	1 「チャイム to チャイム」の実践により、時間を守って積極的に授業に参加する態度を育成する。 ○学校評価（生徒・職員）において「授業準備をし、始業チャイムのときには着席している」の回答が、 A；90%以上 B；85%以上 C；80%以上 D；80%未満	C	生徒の①②評価(79.2%)が職員(89.3%)よりも低い。状況に鑑み、意識の向上、学習環境の整備が必要である。
	2 学習意欲をかきたて、自ら学習する態度や習慣を育てる。	2 家庭での学習習慣の形成の定着を図り、定期試験に臨む意欲や意識を高め、1・2学期末の欠点数を減少させる。 ○1・2学期末の欠点数が総数の A；1%未満 B；3%未満 C；5%未満 D；5%以上	B	依然として2学期に欠点をとる生徒が1学期よりも増加する傾向にあるため、意欲向上を促していきたい。
工業教育⑪ 商業教育⑫ (専門部)	3 生徒が所属する学科の基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けさせる。	3 専門性を高めるための資格に対して、取得のために真剣に取り組む姿勢および家庭学習の習慣化を図るなど、主体的な学習態度を育成する。 (技能検定、情報技術検定、測量士補、2級施工管理技術検定、第二種電気工事士、パソコン利用技術検定、全商協会検定1級3種目以上等) ○検定や資格の取得率が A；前年より20%以上向上した B；前年と同様であった C；前年より20%程度低下した D；前年より30%以上低下した	B	商業は資格試験の取得率が向上したが、工業科は向上しなかった。特に技能検定の受験料値上げの影響は大きい。次年度に向け資格試験への取り組みを検討したい。
	4 各種大会や上級資格に積極的な取り組みをさせる。	4 各種大会での上位入賞や上級資格取得のため、地域産業界の人材を活用する。 ○地域産業界の人材活用が A；前年より増加した B；前年と同様であった C；前年より低下した D；まったく活用できなかった	A	工業、商業とも昨年を上回る結果を残せることができた。次年度も同様の結果へ向けた指導をしたい。

評価項目	重点目標	具 体 的 取 組	評価	次年度の課題とその対応策
	5 キャリア教育を充実し、地域社会の発展に寄与できる人材を育成する。	5 インターンシップ事業やキャリア形成支援事業等をとおして、社会人としてのマナーと主体性、実行力、コミュニケーション能力の向上を図る。 ○生徒アンケートの「社会人として必要なマナーや能力」に関して、「あてはまる」「だいたいあてはまる」が、 A ; 90%以上 B ; 85%以上 C ; 80%以上 D ; 80%未満	B	コロナ禍において、企業等の協力により、インターンシップが実施できた。生徒にとって少なからず本項目の目標達成に役立ったと考える。今年度は実施のための感染症対策に注力したが、生徒に考えさせる時間を増やすなどより充実させたい。
読書指導 ⑥ (学習指導部 図書管理係)	6 図書館及び図書利用の活発化を図る。	6 図書委員会で「図書館だより」を発行するなど、広報活動を充実させ、図書館利用の推進を図る。 ○図書館利用の生徒・教科・クラスが A ; 昨年より多くなった。 B ; 昨年と同程度であった。 C ; 昨年よりやや減少した。 D ; 昨年より大幅に減少した。	B	図書便りの発行ができなかった場面もあったが、図書館の利用者数はほとんど変化がなかった。
家庭地域との連携⑨（渉外部）	16 P T Aとの連携を強化し、P T A活動の活性化に努める。	16 P T A各行事の運営について改善を図り、保護者の参加率を高める。 A ; 大幅に増加した。 B ; やや増加した。 C ; 変わらなかった。 D ; 減少した。	D	産業界等視察研修やボウリング大会が計画されたが、参加希望者が少なく実施できなかった。P T A活動に対する保護者の意識の変化に合わせ、活動内容を再検討する。
情報化推進 ⑩ (教務部 スキルアップ係)	7 情報機器を活用した授業の推進を図る。	7 教職員対象のスキルアップ研修を計画し、実施する。 A ; 年間 6 回以上実施した。 B ; 年間 4 回以上実施した。 C ; 年間 2 回以上実施した。 D ; 年間 1 回以下実施した。	C	回数こそ少なかったが、内容の質に重きをおいた。また、スキルアップ関連の情報を朝の打合せや職員会議等にアナウンスし、紙面でも紹介することで、先生方の支援に繋がったと感じる。

評価項目	重点目標	具体的取組	評価	次年度の課題とその対応策
生活指導③ (生徒指導部)	8 学校生活への適応と基本的生活習慣の確立のため指導の充実に努める。	8 教師が率先して挨拶を行い、生徒が学校生活の多くの場面で積極的に挨拶ができるように指導する。 ○生徒アンケート「言葉遣いや礼儀などマナーの定着度」に関する結果から 「あてはまる」「だいたいあてはまる」が A ; 90%以上 B ; 85%以上 C ; 80%以上 D ; 80%未満	A	生徒、保護者の回答は、A判定であった。 次年度は欠席や遅刻に関することや服装や頭髪等の規則について学校評価で課題となる点を強化していきたい。
	9 交通安全教育の充実及び指導強化を図る。	9 HR活動・特別活動を通じて交通安全教育を実施し、交通マナーの向上を目指す。 ○重大な交通事故発生件数が昨年度より A ; 大幅に減少した B ; 多少減少した C ; 同程度だった D ; 増加した	D	事故発生件数は増加傾向になり、次年度はよりマナー・モラルに関する課題を学校全体として強化していきたい。
健康指導⑦ (学校安全部健康指導係)	10 自己の健康状態に関心を持ち、自ら適正な健康管理ができる姿勢を育む。	10 保健室利用者への個別指導および教科での安全な活動を行うための指導を充実させ、個々の怪我の防止に努め、生徒の自己管理能力を高める。 自己管理の意識が向上し、保健室利用者数(外科)が昨年より A ; 大幅に減少した(-15%以上) B ; 多少減少した(-10%以上) C ; 同程度だった D ; 増加した(+10%以上)	C	利用者数的には変化がないが、頭部裂傷やノミによる切傷が2件ずつあり、ヒヤリハット事例が増加している。継続して怪我の防止について徹底したい。
施設設備の安全管理⑧ (学校安全部施設設備係)	11 省エネルギーを実践する姿勢を育成し、職員・生徒の主体的省エネ行動を推進する。	11 不要な照明の消灯，冷暖房温度の適正維持等を職員，生徒が実践することにより，消費電力を削減する。 ○昨年度の消費電力量より A ; 1.0%以上削減できた。 B ; 現状を維持することができた。 C ; +1.0%以上増加した。 D ; 大幅に増加した。	A	今年度は基本料金の変更もあり例年以上に省電力に励んだ。電気使用量は、概ね10%以上の節約になった。7月の使用量が飛び抜けて多いので、対策を考えたい。
進路指導④ (進路指導部)	12 組織的な進路指導を推進し、望ましい勤労観・職業観を育成するとともに、主体的な進路選択のための指導・援助に努める。	12 進路指導部・各担任・各学科・各教科等が連携し、個別指導を重視した進路指導に取り組む。 ○連携した指導及び個別指導を重視した指導に取り組み，希望進路実現率（第一希望）が， A ; 進路実現率 90%以上であった。 B ; 進路実現率 85%以上であった。 C ; 進路実現率 80%以上であった。 D ; 進路実現率 80%未満であった。	A	内定後の事務連絡不備や辞退者が複数件あった。今後、内定後の指導も充実させていきたい。

評価項目	重点目標	具体的取組	評価	次年度の課題とその対応策
特別活動⑤ (特別活動部)	13 部活動の加入・定着を促し活性化に努める。	13 部活動を知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むための重要な機会ととらえ、部活動紹介や広報活動などを活発にし、定着率のアップを図る。 ○1年生の年度末に部活動定着率が、 A ; 7割以上 B ; 6割以上 C ; 5割以上 D ; 5割未満	A	1年生の部活動定着率が継続するよう各部活動が連携し、指導していきたい。
学校運営① (教務部)	14 授業と行事の総合的バランスをとることに努める。	14 学習指導部、特別活動部と連携し年間行事予定と特活・LHRの調整を図り、授業時数の均等化に努める。 A ; 授業時数の均等化が図れた。 B ; 2/3の学期で均等化が図れた。 C ; 2/3の学期で均等化が図れなかった。 D ; 全学期で均等化が図れなかった。	B	1・2学期は、各部と連携し授業時数の均等化が図れた。3学期は、授業時数が少ないこともあり若干の偏りができてしまった。
学校運営① (学年部)	15 学年間の連携強化に努める。	15 学年間(学年主任間)の連携を密にし、学年間の共通理解を図る。 A ; 随時連携し、十分共通理解が図れた。 B ; 学期毎に打合せを行い、共通理解が図れた。 C ; 年間を通して、学年主任間で数回打合せを行い、共通理解が図れた。 D ; 学年間の共通理解が不十分であった。	C	次年度は打合せを定期的に行うため、行事予定に組み込みたい。
家庭地域との連携⑨ (渉外部)	16 PTAとの連携を強化し、PTA活動の活性化に努める。	16 PTA各行事の運営について改善を図り、保護者の参加率を高める。 A ; 大幅に増加した。 B ; やや増加した。 C ; 変わらなかった。 D ; 減少した。	B	事業内容の改善を図り、さらなる実施を実現してく。
いじめ防止対策③ (生徒指導部)	17 いじめの早期発見、いじめの再発を防止するための取組を強化する。	17 生徒との面談やアンケートを通していじめの早期発見や解決を図る。 A ; 各機関と連携を図り十分に対応ができた。 B ; 各機関と連携を図り対応ができた。 C ; 概ね対応ができたが、継続指導中。 D ; 十分な対応ができなかった。	B	さらなる連携、丁寧な対応を通じて防止対策を推進していく、